



深草徹のここがポイント

## 憲法「改正」と嫌韓バブル

深草 徹



安倍首相は9月11日、内閣改造後に行われた自民党役員会で、「わが党の長年の悲願である憲法改正を、党一丸となって強く進めて行きたい」と述べました。翌12日には自民党改憲推進本部長に、昨年3月、自衛隊を九条に明記するなどの四項目の改憲案をまとめ上げた党の重鎮中の重鎮、細田博之元幹事長・憲法改正推進本部長をと登用することを決め、憲法「改正」をやり遂げる強い決意を鮮明にしました。

先の参院選の結果、改憲勢力は三分の二を割り込み、世論調査でも、そのことを「よかった」とする者が43%、「よくなかった」とする者が26%。「安倍首相に一番力を入れてほしい政策」として、「憲法改正」はあげたのは、わずか3%で最下位でした（朝日新聞7月22、23日調査）。

それにもかかわらず、安倍首相が強気を崩さないのは何故でしょうか。私は、日本国民の中に、今もよどみ続けている韓国人（朝鮮人）に対する差別・偏見を、巧みに利用して獲得される政治的支持の肥大現象を“嫌韓バブル”と呼んでいます。安倍首相は、まさにこれに望みを託しているのではないかと、思います。安倍内閣は、今年になってから嫌韓バブルで、実に望外の支持率を確保し続けているのです。改憲阻止、憲法を「守り、生かす」ためには、嫌韓バブルを克服することも重要ではないでしょうか。

注：私のブログ「FK 元弁護士の雑記帳」で「最近の日韓関係の危機の顛末と原因をつまびらかにし、その修復の道を論ずる」という論考を連載しています。「嫌韓バブル」についてもその(16)、(17)で説明しています。是非ご一読ください。

(深草憲法問題研究室主宰、九条の会. ひがしなだ共同代表)

## 九条の会. ひがしなだ 憲法学習会

### 参院選後の新たな情勢と改憲阻止への展望

～市民と野党の共闘の力で歴史を前へ～

日時：10月5日（土） 14時～

会場：東灘区民センター多目的ホール（9階）

講師：富田宏治さん（関西学院大学法学部教授）

参院選挙後の新たな情勢の中で、改憲阻止の展望はどこにあるのか  
富田教授がお話しします。

なお、講演に先立つ13時30分から、九条の会. ひがしなだの  
臨時総会を行います。



## 原発賠償近畿訴訟団 8月31日、大阪で交流会

松本 理花

2019年8月31日、大阪市ドーンセンターにて第8回原発賠償近畿訴訟団交流会が開かれました。

原発賠償訴訟は全国30か所以上で闘われていますが、近畿地方の3訴訟団（京都・関西・ひょうご）が2014年から持ち回りで開催しています。今回の交流会は、全国の原発被害者訴訟の会議を組み込み、近畿3訴訟団に続き、九州・広島・愛知岐阜・かながわ・東京・千葉・いわき市民・避難者・津島・生業（ネット中継）の各原告が報告されました。



その中での発言を紹介します。「自分は強制避難区域からだけれど、どこから逃げたかは、問題ではない。今も静岡のキノコも、宮城の山菜も汚染されている。いま健康被害のある、なしは関係なく、被ばくさせられない、被ばくから逃れる、これは当然の権利なんだ、加害者は東京電力なんだ。」

東京電力福島第一原発事故による賠償訴訟は一部の被害者が訴えているだけではありません。これは公害、すべての人に関わる問題です。ぜひ、お近くの裁判所に足をお運びください。

【ぼかぼか★サポートチーム（ひょうご訴訟支援者）、九条の会、ひがしなだ世話人】

### アピール

## 「火垂るの墓」記念碑を

土屋純男

「火垂るの墓」は、後の直木賞作家・野坂昭如氏が少年時代、神戸で戦災に遭い、西宮市満池谷町の親類宅で1歳2カ月の妹と過ごした、52日間の体験を基に執筆した小説です。

高畑勲監督によるアニメ映画では、ニテコ池の水辺が原画のモデルとなり、広く知られています。野坂氏は世話になったおばさんの家や、逃げ込んだ防空壕の場所などをアニメ関係者に「あのあたり」と指さしただけで、多くを語ろうとはしませんでした。野坂氏の死去（2015年12月9日）後、おばさんの家および利用した土の防空壕とコンクリートで固められた防空壕の跡地2カ所が、特定されました。

これを機に、「火垂るの墓」記念碑建立に向けた活動が始まり、地元有志、文学研究者、元教師らが『「火垂るの墓」記念碑建碑実行委員会』（略称：「火垂るの墓記念碑委員会」）を、2017年3月に発足させ、今日に至っています。

この間、西宮市からは、記念碑設置場所として震災記念碑公園の一角を提供されることが決まり、運動は大きく前進しました。

戦後75年となる来年（2020年）6月の完成を目指し、痛ましい戦争から生まれた文学を顕彰するとともに、その誕生の地に記念の文学碑を建立し、後世に語り継いでいきたいと思ひます。

幅広い募金活動をはじめ、皆様の暖かいご支援・ご協力をお願いする次第です。

（「火垂るの墓」記念碑建碑実行委員会代表、西宮市満池谷町5-47 ☎0798・73・1853）



わたしのひと言

## “正気”の人間は黙ってはいけない

伊藤 健一郎

肝心なのは、無知と偏見に抗う正気の人間たちが、黙らないことです。

2019年夏、一部のネットのみならず地上波TVや雑誌でも、韓国との敵対を強調する報道が増えています。その中で少なくない日本人が「自分たちは被害者だ」「韓国人ってやつは・・・」といった感覚を持つようになっています。

こうした感覚を下地として、「普通の人間」と意識される自分たちとは区別された社会的少数者を「一段下の劣った存在」として、「本来ならこの国に在るべきでない人たち」として言及するヘイトスピーチが横行することになります。曰く、「そんなに日本が嫌いなら韓国に帰れば?」「〇〇人って～～だよね」等々。

現在、日本でのヘイトスピーチの多くは、日本社会が、かつての侵略と植民地支配の歴史をしっかりと学ばなかったことと、脱亜入欧信仰に由来する「朝鮮」への潜在的な蔑視感情とが、合わさってできた敵意の総体が、氷山の一角のように表出したものと思われます。ヘイトそれ自体がリアルタイムで被害を生む犯罪的行為ですから、即座に対応をすることで、そこに潜在する敵意の方も、同時になんとかしなければなりません。

(立命館大学講師)

### 檻の中のライオン憲法講座⑱

## 憲法を守るのは誰?～公務員の憲法尊重擁護義務

椋 大樹

「檻が壊れないようにする仕組み」として、私たちがライオン（国家権力）に、檻（憲法）から出ないように言い聞かせる規定があります。99条「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。」つまり、政治家など公務員は、「憲法を守って」仕事をしなければなりません。

立憲主義の観点から、「ライオンが檻の中にいる義務」だとすると、国民はこの義務を負わないことになります。99条にも「国民」は書かれていません。国民がこの義務を負うとしても、「檻が壊れないよう外から監視する義務」ということになるでしょう。

「立憲」というのは「ルールを守って権力を行使する」という意味で、「改憲反対」という意味の「憲法を守ろう」「護憲」とは意味が異なります。

参照『檻の中のライオン 憲法がわかる 46のおはなし』椋大樹著

(はんどう・たいき、明日の自由を守る若手弁護士の会、ひろしま市民法律事務所)



# テレビって な～んだ

公庄 れい

私は新聞を取っていないので、もっぱら世間の情報はテレビから、ということになる。これがまた、どのチャンネルも玉ねぎさんの事ばかり。外国の政治家と私の生活と、どう関係があるのだろう。

一方、私たちのお金が、ザンブザンブと、海に投げ込まれているのに、テレビは一向に教えてくれない。

沖縄の辺野古に飛行場をつくるためにと、海が埋め立てられつつあるのは多分、ほとんどの方がご存知だと思う。が、その海底にマヨネーズのような軟弱地盤が、厚さ60m、海面下90mに及んでいる箇所がある、ということを知っている人は、少ないのではないのでしょうか。

政府は、7万7千本もの砂杭を打って、地盤改良工事を行うと言っているが、国内の作業船は、70mまでしか施工できない。政府は、70m以深は地盤改良しなくてもいい、と言い始めているという。

とにかく埋め立てる。埋め立てたい。何のために？ 国民のお金を海に放り込む為に？ 教えてよ テレビさん

(孫たちの将来を案じるお婆ちゃんの会)

## 催し案内

### 第5回平和と文化のつどい

「憲法と天皇の制度を語る」

日時：10月14日(月・祝) 14時

場所：尼崎市立大庄北生涯学習センター

講演：山上勤(弁護士、自由法曹団全国幹事)

音楽：かわさきゆたか(シンガーソングライター)

主催：武庫川9条の会

問合せ：☎06-6419-0453(井上さん)

### 東灘の戦跡巡り

日時：11月16日(土) 10時～

集合：阪神「石屋川」駅

コース：東明八幡～処女塚～「火垂るの墓」モニュメント～御影公会堂～弘隆寺～御影警察署跡～澤ノ井～阪神「御影」駅(解散)

主催：白川・落合九条の会(須磨区)

問合せ：090-6206-9211(合田さん)

### カンパの郵便振替口座

口座記号 00900-6

番号 217129

名義 九条の会. ひがしなだ



安倍改造内閣が発足しました。安倍首相は改造後の記者会見で「安定と挑戦」を掲げ、「自民党結党以来の悲願である憲法改正への挑戦だ。困難でも必ずや成し遂げていく」と改憲への執念を見せました。参議院選挙の結果、改憲勢力が3分の2を割ったことを受けての発言であり、私たちへの「挑戦」であると受け止めました。

編集後記

(N)